

## 普段着のわたしたち

お寺の近くの  
早咲きの桜に、  
メジロがいまし  
ました。スマートフ  
ォンで撮影しま



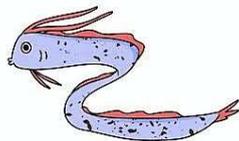
したが、デジタルズームなので画像が荒い  
です。慌ててカメラを取りに戻って、また  
桜の木まで行ったら・・・もうメジロはい  
ませんでした。よくある事ですね。征阿



「マンボウのいる水  
族館 志摩マリンラン  
ド」 3月末で閉館と  
のニュースを聞き、息  
子に見せてやろうと車  
を飛ばしました。

ユラユラのんびり泳ぐ  
6匹のマンボウ。彼らはココが閉館になる  
と、どこかへ里子に出されるのでしょうか。  
名古屋港水族館へ来たらいいねと思いなが  
ら眺めていると、息子はマンボウより「リ  
ュウグウノツカイ」のホルマリン漬けに釘  
付け。

「ソレ、動いてないじ  
ゃん。せっかく水族館へ  
来たのに、動いてるところを見た方が楽し  
いよ」と言っても無視。



帰宅後も「リュウグウノツカイ」を図鑑  
で確認しその話ばかり。マンボウはどこへ  
やら。よほどソレが衝撃的だったようです。

訶梨帝母

拝啓 小泉様、「炭素税」って何でしょ  
うか？レジ袋の次はスプーン持って会社へ  
行け？ 甘味は衝動的に食べたくなるもの  
です。レジ袋有料化以来コンビニの売り上  
げが落ちているそうです。このご時世に本  
当に間の悪いお方です。私のエコ、「牛乳石  
鹼良い石鹼(^\_^♪)」です。シャンプー・リン  
ス・ボディーソープ、ツルツル禿げ頭  
にはこれ一つ。容器、詰め替え袋のゴ



ミも出ません。無くなりかけたら新しい石  
鹼に押し付けてドッキングで無駄なし。「セ  
クシー過ぎるぜ牛乳石鹼…」などくれぐ  
れも発表しないでください。牛が世間から  
批判されるのがかわいそうです。俊徳丸

17色のSDGs(エスディー・ジーズ)ピンバ  
ッジを付けている人を見て、私も欲しくな  
りました。amazonから取  
り寄せますと、国連正規  
品が780円。(意外と安か  
った。ホッ！)



SDGsとは持続可能な開発目標。人間が  
環境保護や人権を考えず利益追求にのみ走  
り続ければ、世界が立ちいなくなる。国  
連加盟の193ヶ国が達成を目指す17の目標  
です。多くの内容の中には、お寺の将来に  
向けてのヒントがいっぱい。迷走ボー

『友引町内会通信』をスマホでお読みい  
ただくには、<http://www.daigoji-temple.jp/>  
「友引町内会通信」をクリック。寺務局

新入学の四月。昨年の味気ない入学式から早いもので息子も二年生。体操服や上履きが、たった一年で小さくなり買い換えねばならず、嬉しいやら悲しいやら。

さて、私は学生の頃、某デパートの学生服売り場でアルバイトをしていました。当時は私立公立問わず高校の校則が厳しい時代。購入の際には必ず本人が試着し、スカート丈等のチェックをして販売しなければなりません。あまりにルールを逸脱した制服を販売したり、生徒でない者がソレを着用の上で市中を徘徊し、警察沙汰になる。そして押収品に「MZ屋」とタグが付いていて、学校側からクレームがあると、その学校の制服の販売許可が取り消される。このことで、十分注意を払って販売するようにと指導を受けていました。

学生服売場、そこは短期間ながら色々な件が起きる現場でした。毎年、必ず数名の不審な男性客が訪れるのです。女子校の制服を着たマネキンの前で長時間立ち尽くし

たり、「妹が入院中なので代理で制服を買いに来た」と妄言を吐いてみたり、直球勝負で「このセーラー服をください」と挑んできたり。とはいえ相手はお客様。決して失礼のないように、逆ギレされて騒ぎを起こされないように、速やかに退散してくださるように、と祈りつつの接客でした。そのような困ったお客様の好みはほぼセーラー服。ブレザースーツ式の制服

## こもりうた75



は人気薄でした。

ある年のお客様様はかなりのツワモノでした。

おそらく他店でも断り続けられたのでしよう、完全武装（女装）で来店。

「私が新入生、私が試着して買う」と乗り込んできました。売場主任を呼びに行く間の時間稼ぎに試着させたものの、ひだスカートの横ファスナーを右に履いて「うふふ♡」の笑み。小さめの声で「お客様、女性用スカートのファスナーは左にくるものなんですよ」と耳打ち。彼は女装初心者だっ

たと推察します。結局、「これは全て見本。採寸オーダーの上、ご自宅にお送りしますのでここにご住所を」と告げられた時の彼の悲しそうな顔。諦めて帰っていく後ろ姿慣れぬ面妖な女装（多分母親か祖母の服）にヘアピースまでかぶって、相当な覚悟で売場へやってきた彼。こんなに欲しがっているのだから、売ってあげればいいのにと個人的には思っていましたけど。

時は流れ、今はセーラー服だろうが何だろうが、新品だろうがお古だろうが、ネットで購入すれば易々と手に入る時代。女装家なる方々がメディアでも台頭目覚ましく。それぞれが才に恵まれていて、皆さんとても魅力的。昔ほど「変人扱い」されず「嗜好」と受容される昨今。あの頃、学生服売場を彷徨っていた彼らも、好きなものを買って身につけて、心安らかに過ごさしてでしょうか。

あの時は売ってあげられずゴメンナサイ。私もそれが仕事でしたから（バイトだけ）という四月の思い出。

訶梨帝母

## 「位牌」の宣伝より



先日、写真のようなお位牌を作ってみました。クリスタル製でお洒落な位牌です。光の当たり具合で七色の虹色に発光するよう加工してあるのも魅力。私のカメラ、撮影技術ではそれを再現出来な

いのが非常に残念です。そのお位牌には「ご先祖さまありがとうございます」とありますが、本来ならセンスの良い私が考えぬいたスペシャルな「戒名」が刻まれます。本堂内お焼香台にお祀りして多くの人にお参りをさせていただいておりますので、既にこの3ヶ月間で3名の女性から「御予約？」をいただきました。当方も佛具屋さんからいただいたパンフレットで対応させていただいております。花柄の透かし彫りが入ったのもあります。女性は目を丸くして、お気に入りブティックに行ったかのように品定めをされます。「私、これにする！」とご決断されて出てくる次の言葉が、「主人(夫)とは、別々の位牌にしてくださいね！主人は普通の黒いのでいいですから」。3名の内2名からこのようなご要望を承りました。私も…「まあ、大丈夫だとは思いますが(汗)、ご主人より先に死ななければ問題ありません」とお答えしておきました。

位牌のお祀りの仕方からも「夫婦別性」の問題が垣間見られます。キリスト教は元来「個人」単位の信仰ですが、佛教・神道など日本に根づいた宗教は家族や地域単位で信仰されてきた要素が大きいです。寺方も日常に「〇〇家過去帳一切之精霊」や「〇〇家先祖代々の精霊」などご回向で毎回お称えしています。これら文言について近い将来に変化を求められことがあるでしょう。ただ物理的にも、ご先祖が一人でも欠けたら今の自分の存在はないのですから、それを「柱」に複数の面から工夫して努力して変化に対応していくことが大事になるでしょう。私の知人の僧侶で、昭和・平成・令和など年号が肌に合わないのが理由で、ご回向の中で亡き人のご命日を西暦で称えている方がいますが何度聞いても馴染めません。「何がなんでも自分の思う通り」的な行いは慎みたいものです。余談ですが、先日の国会で福島瑞穂議員の丸山新大臣に対する「選択夫婦別性」に関する質問発言にイエローカードです。

私の亡き母は私が生まれる前から小学校の教師でした。訳は聞いたことありませんが職場ではずっと旧姓を使っていたようです。当時、私がまだ小学生の頃、毎晩のように父兄のお母さんから夫婦喧嘩等の相談で電話がかかってきました。その時私が電話に出ると。「〇〇先生のお宅ですか？」と尋ねるのは母の旧姓で、その度に私は理由も分からず嫌な思いをしたことを覚えています。母にしてみれば職場と家庭のけじめをつけたいためだったかも知れません。当時はまだ、女性が外で働きお給料を貰うことが特別な時代でした。 俊徳丸

## 岐阜県人よ、もっと主張を

先月のことです。夜7時のNHKニュースの後、岐阜県各地の人々を描く番組がありました。地元で活躍する若者に全国向けメッセージを発信させるのが趣旨です。

ところが前段階で、岐阜県民の郷土愛が全国で42位。街でインタビューに答える人の岐阜に対する印象が、「ダッセー」「なんにもない」「東京で出身を聞かれても岐阜って言わない」等々。岐阜県の若者は全員自虐的と言わんばかりで、憤慨しました。

『君の名は』という映画が大ヒットして、舞台となった飛騨古川駅へ全国からファンが「聖地巡礼」に殺到した時に、飛騨市内に映画館が一軒もなく、地元の人々が観ることができずに悔しい思いをしたとも知りませんでした。

「それは気の毒やな。けど、あんな古い映画またやってるの？」（昭和28年の、佐田啓二と岸恵子の映画と勘違い）

聞いた話ですが、徳川家康は美濃の国を大変恐れた。斎藤道三が「美濃を制する者は天下を制す」と看破したように、国力が強く、京へ出やすい。そこで家康は、関ヶ原の戦い以後、岐阜城を取り壊して尾張徳川家の直轄地とし、周りには一万石程度の小藩を幾つも置いて相互に牽制させた。

こうして260年間に沁みつけられた体質が明治になっても抜けきらずに尾を引いて、岐阜県人はまとまりが良くないのだと。

果たして本当でしょうか？



先日、公益財団法人高井法博奨学会からお招きをいただき、第五期奨学生認定証授与式に出席させていただきました。

この財団の目的は、能力も熱意もあるが、経済的理由で大学進学を断念せざるを得ない高校生に、進学後の4年間、毎年60万円の奨学金を支援するもので、返済不要です。

今期は19名の応募者から3名が選ばれましたが、選考はさぞや難しかったでしょう。

理事長の高井法博氏はTACT高井法博会計事務所の会長で、私財を投じて財団を設立され、趣旨に賛同する支援者からの寄付を受けて運営されています。

高井理事長が記念講話で話されたのは、「一期一会」出逢いを大切に

他を圧倒する程の徹底した勉強を

人生成功の秘訣は目標設定にあり

正しい座標軸、自利利他の生き方

謙虚に、誠実に、報恩感謝の心を忘れず

第一期生の2名は今春卒業し、それぞれ

日本IBMと岐阜県警察へ就職します。

奨学生にはそれぞれ目標があります。官僚になる。弁護士になる。公認会計士になる。看護師になる。決意表明する姿に感銘を受け、爺めは涙腺が緩みました。

人材育成こそ国の礎いしずえ。我が町には、

「私は岐阜県出身です」と胸を張る優秀な若者が集い、日本の将来を担う学生を支援する組織があります。

## 『私説法然伝』(75)

法然がくる②

先月号では法然がくるということ、法然上人が顕真法印と出会い、教えについての公開討論会「大原問答」開催までの経緯を書きました。今月号はその続きについて書きます。

【この「大原問答」は一昼夜かけて行われたと伝記にはある。各種伝記によって内容はまちまちであるが、問答の中身としては自力じりき聖道門しょうどうもん(本願念佛以外の佛教)を捨てて他力たりにき浄土門じょうどもん(本願念佛)の教えに入る理由を法然上人が説かれたという大筋があり、それに対しての質疑応答が行われたようである。法然上人の立場、考え方としてはつきりしているのが、聖道門つまり浄土門以外の考え方を否定するものではないという事である。要するに聖道門と浄土門というのは方法論の分け方で優劣の話ではないという事である。その上で法然上人がなぜ他力浄土門つまり本願念佛であるのか、

という点が重要となる。法然上人は集まった人々に説いた。まず法然上人にとって自分の力で悟ったり極楽往生するという自力という方法論は無理であったこと。そして浄土三部経と観経疏によれば阿弥陀佛の「願力がんりき」によって人々は誰でも往生できる、それは人々の能力の有る無いを問題としないのであり、戒律を守る守れないというのも問題としない、阿弥陀佛の「願力」という「他力」で往生するのである。そして煩惱も消滅変化も無い佛の世界である「西方極楽浄土」に生まれて「佛」となるのだ、と。そしてこの他力浄土門は文治二年(一八六年)の法然上人らが生きる時代と人々に「合っている」(時期相応)のだと法然上人は聴衆に説いた。

この「大原問答」は二つの事実が重要となる。まず一つ目が法然上人の考え方が非浄土門の人々にどう受け止められていくのか、そのファーストインパクトであったという事。次に法然上人の中で完全に他力浄土門が思想的に言語化されて完成していたことである。

「大原問答」を顕真法印側から見たらどうであったのか？法然上人という存在のファーストインパクトを彼らはどう受け止めたのか？それはまさに「法然がくる」であり「法然がきた」のであった。諸説有るが「大原問答」での法然上人が世に与えたインパクトは、法然上人の想像よりも大きなものになっていったのである。】

以下次号に続く(征阿)



大原の風景

## 続・観経物語(22)

観経要讃①

ちゅうほんじょう しょうじょうかい

中品上 は 小乗戒

ちゅうほんちゅう はっさいかい

中品中 は 八斎戒

ちゅうげ じゅほう

中下の受法もここにあり

これらにほん かいふく  
此等二品は 戒福ぞ

観経の教えも前半の定善十三観が終わり後半の散善三観もしくは三輩九品とも言われる箇所になりました。このうち中品の処のお話です。積尊は、中品の上生の人を「衆生有りて、五戒を受持し、八戒齋を持し、諸戒を修行し、五逆を造さず」として、また中品の中生の人は「若しくは一日一夜、八戒齋を受持し、若しくは一日一夜、沙弥戒を持し、若しくは一日一夜、具足戒を持し、威儀欠くること無からば」と述べられ、いづれも種々の戒行かいぎようにいましめを守って修行する人、即ち、戒福の人を説かれ、中品の下生の人とは、「若し善男子善女人有りて、父母に孝養し、世

の仁慈を行なわんに、此の人、命終わらんと欲する時、善知識の、其の為に阿弥陀佛の国土の樂事を広説し」と世間の道德を修める人、即ち、世福の人を説いておられます。

関本諦承師は、この積尊の教説を受けて、この観経要讃の(二十一)では、中輩中品の人を、受法の違い、すなわち佛の教えをいつどのような時に、誰からどのような形で受けたのか違いによって二つに分けて、中品上生の人は小乗の出家者で小乗の戒律を保持するに堪える人のこと。中品中生の人は、小乗の人ではあるが、大乘の八戒齋を一日一夜だけ受持し、また、一日一夜だけ、佛門に入ったばかりの沙弥が守るべき沙弥戒(十戒)や、出家修行者である比丘の守るべき、二百五十戒などの具足戒を守る人で、いわゆる戒福の人として、生前に佛の教えに会い、樂を受ける種々の人たちとしておられます。

これとは区別して、要讃の(二十一)から外したのは中品下生の人たちで、世間の道德や倫理を守って善根を積んで回向して、

樂を求める、自力修行の世福の人であるが、佛法を見聞しないまま終わろうとする、苦を受ける人たちで、共に善機として同じと言えども分けねばならないとされたのです。

《妙星齋》

